# ユースサービス
# YOUTH SERVICE

若者と支援者をつなぐ機関誌
VOL. 12

**若者を考える、若者と考える**

## 教育格差に挑む
## 学習支援の広がり

## 若者たちが繋がる「住み開き」
～広がるシェアハウス～

特集 教育格差に挑む学習支援の広がり 3
「親子支援ネットワーク♪あんだんて♪」（ねっとわーく） 7
多様な地域情報が集まる〝ふしみんメディアパブスタジオ〟 8
若者たちが繋がる「住み開き」～広がるシェアハウス～ 10
青少年活動センターのページ
北青少年活動センター「地域活性ボランティア」 12
ユースかわら版 14


## ぷち・メッセージ

### 寛容になろう。

弁護士
安保千秋


いつの時代も、年上の者の若者に対する評価は厳しいものだが、現在の社会は余裕がなく、ますます若者に対して厳しくなっている。

私は、法律実務家として仕事をしている。この仕事に対する意欲を失わずに来れたのは、相談者等の複雑な気持ちや状況を想像し、その状況を少しでも良くしたいという感受性と想像力を僅かばかりではあるが、なんとか持ち続けているからである。そして、この感受性と想像力を持ち続けられたのは、悩みながら試行錯誤を繰り返していた若い頃に、周りが試行錯誤することを黙認してくれたり、時に手を貸してくれたりしたからであると思う。

悩み多き若い時代の試行錯誤は、長い人生を支える背骨となってくれる。若者は、試行錯誤を歓迎する寛容さを、社会にもっと求めても良いと思う。また、年上の者は、若者から遠ざかるほど、若者に厳しくなる傾向があることを自覚して、もっと、若者に寛容になろう。

（京都市ユースサービス協会評議員）

Youth Service ユースサービス

# 教育格差に挑む学習支援の広がり

山科青少年活動センター ユースワーカー　上原裕介

公益財団法人 京都市ユースサービス協会は、
２０１０年度から京都市保健福祉局の委託を受け、
ＮＰＯ法人や学生ボランティア団体と連携して、
生活保護世帯の中学生の学習支援に取り組んでいます。
また、学習だけでなく日々の生活や
進路についての悩みにも
寄り添っています。
このような取り組みは現在、
全国的な広がりを見せています。
「格差社会」の到来が指摘されて、
すでに数年が経過しています。
所得格差が教育を通じて
後の進学や就職に影響を及ぼすという、
格差の世代間連鎖が問題です。
中学生年代にも広がっています。

## 全国に広がる学習支援

厚生労働省が２０１１年８月に発表した資料によると、この年、京都市を含め全国約30の自治体が生活保護世帯の子どもの学習支援に取り組んでいます。また、専任の担当職員の設置や民間団体への委託による個別的な進学相談、家庭訪問等を実施している自治体も含めれば、約70の自治体が何らかの形で生活保護世帯の教育支援に取り組んでいます。厚生労働省によれば、このような自治体の取り組みはこの1年間で倍増しています。

さらに、詳しい数はわかっていませんが、民間団体による学習支援は全国に少なくとも１００以上あるといわれています。生活保護世帯の子どもに限らず、児童養護施設等に入所している子どもや、ひとり親家庭の子どもなど、経済的な事情等で学習塾などの民間教育サービスを利用することが難しい子どもたちのために、無料または安価で学習支援を提供しています。ケースワーカーや退職した元教員が自宅を開放して勉強会を開く例や、数

百名の学生ボランティアが登録し、毎年何人もの高校生を難関大学に合格させるような例など、さまざまな取り組みがあります。

## 子どもの貧困と世代間連鎖

いま、このように官民を問わず学習支援の取り組みが広がっている背景には「子どもの貧困」への社会的関心が高まっていることがあります。これまで「社会問題としての貧困はない」とされてきた日本でも所得格差の拡大が指摘され、２００９年10月、厚生労働省は初めて貧困率のデータを公表しました。それによると子どもの貧困率は14・2％で、「7人に1人の子どもが貧困状態」という事実が社会に大きな衝撃を与えました。

また、それだけでなく、教育を通じた貧困の世代間連鎖も指摘されてきました。子どもが学習に継続的に取り組むには、学習に適した環境を整えたり、学習を習慣づけたり、同じ目的を共有する集団に参加したりすることが効果的です。学習塾などの民間教育サービスが生徒の学力向上を可能にしている一因も、これらの点にあります。しかし、こうした教育環境が整っていなければ、学習を自発的に継続することは困難です。また、子どもが自分の将来を前向きに展望することができる状態にあるかどうかも、「学ぶ意欲」を維持する上で重要です。「学ぶ意欲」はひとりでに形成されるものではありません。教育社会学者の苅谷剛彦氏は、これを「インセンティヴ・ディバイド（意欲の格差）」と名付けて問題視してきました（『階層化日本と教育危機』有信堂高文社）。

## 京都市による「中3学習会」の取り組み

京都市でも生活保護世帯は約3万世帯（２０１０年度）にのぼり、保護率は30・1‰と政令指定都市の中でも高い水準にあります。子どもたちの「学ぶ意欲」を高め、格差の世代間連鎖を食い止めることは急務です。「中3学習会」では、青少年なら誰でも気軽に利用できる青少年活動センターが大学生の協力を得て、「学ぶ意欲」を高める工夫を行なってきました。

山科青少年活動センターでは、勉強の後にみんなでお菓子を食べながらワイワイと話せる時間を設けて、学習会に来ることが楽しいと思える集団づくりを意識しています。そうした雰囲気の中で学生ボランティアに悩み事を打ち明けたり、休日や放課後にセンターに遊びに来て息抜きをするようになったりと、中学生にとって「安心して頑張れる場所」になりつつあります。伏見青少年活動センターの学生ボランティアは、中学生の様子を見て「集中力が切れてきたな」と感じたら、スポーツルームで体を動かす「お楽しみ会」を企画しています。勉強だけでなく、学生と交流することで近接世代のモデルをイメージできるような学習会を目指しています。北青少年活動センターでも、アルバイトの仕事内容や大学での専門の話題など、中学生が大学生の存在をモデルとして意識している様子が見られ、学生ボランティアも中学生の質問に対して積極的に応じるようにしています。

そして現在、南青少年活動センターおよび洛西地域でも「中3学習会」が立ち上がろうとしています。まだまだ始まったばかりの取り組みで課題もたくさんありますが、私たちにできることを着実に、少しずつ広げていきたいと思っています。

北青少年活動センターでの学習会

ミーティング中のボランティアグループ（山科青少年活動センター）

学習支援ボランティアたち（伏見青少年活動センター）

### 取り組みの拡充を目指して

京都市の中３学習会は、平成18年から始まった、ある福祉事務所での自主的な取り組みがきっかけとなって制度化され、現在に至ります。高等学校等就学費制度の創設や母子加算の復活など、生活保護世帯の子どもに対する国の支援策の強化も後押しとなりました。今年度は南や、青少年活動センターのない洛西地域でも学習会が立ち上がりますが、京都市としてもニーズに応じた取り組みの拡充を目指しています。学習支援のみならず居場所としての機能も持ちながら、子どもたちが将来の目的や夢を持てるようサポートしていただくことを期待しています。

（京都市担当者）

# ネットワーク型支援のさらなる充実を

## 山野則子先生に聞く

生活保護世帯の子どもの学習支援が公的に取り組まれるようになったことは、貧困が社会問題として認知されたことの証であり、大きな進歩だと思います。かつては、熱心なケースワーカーが自主的にクライアントを集めて学習支援を行なっているところもありました。また、私が福祉事務所で働いていた頃は思春期グループ指導として予算化に成功しましたが、せいぜいその自治体独自の工夫の取り組みでした。それが今こうして自立支援プログラムとして制度化されたわけで、その意義は大きく期待しています。しかし、制度化された今、サービスを必要とする子どもをよりスムーズに学習支援につないでいく仕組みが必要です。また、学習支援の場で見えてきた子どもの課題を、さらに他機関につなぐ仕組みも必要です。つまり、子どもがその時々で適切な支援サービスを受けられるように制度と制度をつなぎ、ケースをリファーし合える体制をつくるということです。

多くの場合、支援を必要とする子どもには複数の困難が降りかかっています。ひとつの機関だけで対応することの限界は明らかです。子ども・若者育成支援推進法が施行され、官民の関係機関が連携して自立支援に取り組むことが求められていますが、これを総合的なネットワークとして機能させられるかどうかが焦点です。各地域に設置されている要保護児童対策地域協議会との連携も外すことはできません。

また、日本では「子どものことは学校に」という意識がありますが、学校の先生は非常に多忙です。子どもの貧困が社会問題になっていることは知っていても、目の前の子どもの背景に貧困を読み解くのは難しいと思います。いま、学校と福祉をつなぐ存在としてスクールソーシャルワーカーの設置が全国で進んでいますが、私はこうした「連携をつくる人」の実践を応用可能なモデルとして理論化することに取り組んでいます。それぞれの領域の壁を超えたネットワークをいかに構築するか、支援の現場でもぜひ探究していただきたいと思います。

**山野　則子**（やまの　のりこ）

大阪府立大学教育福祉学類教授、博士（人間福祉）。専門は子ども家庭福祉論。著書に『子ども虐待を防ぐ市町村ネットワークとソーシャルワーク』（明石書店）、『よくわかるスクールソーシャルワーク』（共編著、ミネルヴァ書房）など多数。

# おやとわーく

## 親子支援ネットワーク ♪あんだんて♪

**●目　的**

不登校の子どもの成長と自立をめざし、親の苦しみ、悩みに寄り添う支援活動をしています。相談、情報提供、通信・情報誌の発行、イベント開催など多様な活動とともに関連機関、支援者などとの交流を通して、不登校の子を持つ親の気持ちの理解を広め、支援の拡充、さらには子育てや教育環境がよりよくなっていくよう活動しています。

**●設　立**

2000年に子育て支援団体が開催した「不登校に関する講座」の参加者の中で、引き続き不登校の子を持つ親を支援したいという思いを持つ者たちが相談や情報誌を作成してきました。そして、2003年4月、不登校をキーワードに子育てを考える情報誌「プロントントン」の発行を機に、9人の母親で「親子支援ネットワーク ♪あんだんて♪」として独立、活動を始めました。現在のスタッフはすべて子どもの不登校を経験しており、経験を活かしたあたたかさが共感を呼んでいます。2011年からは不登校経験者によるピアサポート活動も開始。

**●代　表**

福本 早穂

**●わたしたちの活動**

活動日は原則として水曜・金曜の10時半から16時まで。主な活動は不登校の子を持つ親の交流会「ゆうスペース」（月3回）、日頃のさまざまな悩みを語り合う「こなやみカフェ」、進路を考える時期の「進路相談会」などです。毎回、数人の親御さんが集まり、子どものことから夫婦関係、学校のことなどを語り合っています。またグループではまだしんどい方や今すぐ話を聞いてほしいという方のために、個別相談「オンリーワン」（要予約）もあります。いずれもスタッフがみんな経験者の親という安心感で、なかなかいい出せない本音の話ができると好評です。毎年開催の「シンポジウム」も経験者の親の視点からテーマを設定し、不登校経験者にも参加してもらって考えを深めています。

また広報活動として、「♪あんだんて♪通信」を隔月に発行しています。

さらに2011年度からは不登校経験者を中心としたピアサポート「UNITE（ユナイト）」（月1回）の活動も始まりました。家に閉じこもりがちな子どもさん、動き出したけれど生きづらさを感じている若者たちの居場所として、回を追うごとに参加者が増えています。

（副代表　南野みつる）

住　所 〒607-8082　京都市山科区竹鼻扇町 47-8
SAKIZO　MAISON（サキゾーメゾンタケハナ）竹鼻 101 号室
電　話 075-595-8255（原則として水曜・金曜 10：30 ～ 16：00）　Ｆａｘ 075-595-8255
メール oyakonet-andante2003@kyoto.email.ne.jp　URL http://oyakonet-andante.org/

多様な地域情報が集まる

# ふしみんメディアパブスタジオ

若者たちで賑わう伏見青少年活動センターロビー。
そこに誰でも気軽に動画配信ができる
〝ふしみんメディアパブスタジオ〟があります。
今年の3月、関西のUSTREAM番組を表彰する
「関西USTREAM AWARD」で、
このスタジオの取組みが評価され、
地域情報部門大賞を受賞しました。
また、4月にはNHK京都テレビの
「京いちにち」の中で番組制作のようすが
大きく紹介され、問い合わせが増えてきています。

## 〝ふしみんメディアパブスタジオ〟って？

〝ふしみんメディアパブスタジオ〟とはインターネット上で動画を生配信できるスタジオの名称です。「スタジオ利用」「機材貸出」「初心者サポート」を無料で提供しています。

このスタジオが誕生したのは約1年前、インターネットに詳しい人や映像カメラマン、メディアに関心のある人たちが来て、楽しい議論の末にスタジオ構想ができあがったのです。

「リアルに人と人をつなぐ装置」としてのスタジオ。「動画発信を通じて、人と人がつながり、地域のネットワークが形成されていく」それがスタジオの理想です。イングリッシュパブのように、誰でも気軽に出入りできてつながれる場所という意味を込めて、それは「メディアパブ」と名づけられました。

スタジオの運営は「レギュラー番組の配信」「スタジオ利用者のサポート」「スタジオの広報」などさまざまですが、それらは高校生から社会人までのサポーターが担っています。



## 地域情報部門大賞を受賞！

スタジオがオープンしてから、サポーターが中心となり、2つのレギュラー番組を放送しています。それが地域情報部門大賞を受賞した「ユースドリーム」と「人財ZAKUZAKU」です。これらの番組は、人に焦点をあてた地域情報を生み出しているという点で高く評価されました。

写真は4月12日木曜日、今年度1回目の配信のようすです。まずは、17時からの「ユースドリーム」。この番組は高校生や大学生が企画、配信するものです。この日の番組では取材にきていたNHK京都のキャスターが急きょ飛び入り出演することになり、高校生サポーターの「高校生のときの夢は？」という質問に即興で答えていました。作り込まないありのままの姿を伝えられるのがUSTREAMの魅力の一つです。

18時からは「人財ZAKUZAKU」。これは、伏見にゆかりのあるユニークな人たちをインタビュー形式で紹介する番組で、この日のゲストは伏見で活躍するバラ職人、奥田容彦さん。無農薬でバラを栽培し、「食べられるバラ」や「青いバラ」を作る全国的にもすごく有名な人です。実物のバラをカメラの前に置き、アレンジメントをしながらバラの説明をする奥田さん。インタビュアーを務めたサポーターの吉村智樹さんは「伏見にこんな素晴らしい人がいたことを知らなかった」と驚いていました。普段は出会うことのない地元のユニークな人たちをこうして発掘していくのが「人財ZAKUZAKU」のねらいです。

## たくさんの人と物が紡がれていく地域の拠点に！

この一年間、番組を通じていろんな人や情報と出会うことができました。きっと伏見には魅力のある人や文化がまだまだ埋もれているはずです。多くの人がさまざまな情報を発信することで、地域の文化や風物に光があたり、たくさんの人、いろいろなものが紡がれていきます。その情報発信の拠点として〝ふしみんメディアパブスタジオ〟が機能していければと思っています。

（伏見青少年活動センターユースワーカー　田名後　卓）

若者たちが繋がる

# 「住み開き」

## ～広がるシェアハウス～

「無縁社会」や「弧族」という言葉がひろがり、社会的な問題となっています。

その要因として長引く不況、薄れる家族の絆などが取り上げられています。

その一方で人と繋がることを求め、若い人が集まる家が増えてきました。

京都でもそんな空間作りをしている若者たちを追ってみました。

（京都若者サポートステーション　ユースワーカー　冨田祐子）

### 株式会社 めい

昨年の1月に出会った若い2人が意気投合し、4月に株式会社設立、職住一体型シェアハウス「めいちゃんち」の運営を始めました。学生同士だった扇澤友樹さん（23）と日下部淑世さん（25）は内定していた就職先を断り起業しました。現在、伏見区に準備中のカフェ付きを含め、4軒のシェアハウスを京都市内で運営しています。

1軒目（北区）は寺子屋がコンセプトのシェアハウスを開設。ツイッターやフェイスブックで繋がった18～30歳前後の若者について「求めているのは出会いと未来。変わった価値観の人がたくさん来るので、いい刺激があります」と話しています。

ここの住人になると、一人暮らしの時に支払う敷金礼金分の初期費用だけで、3年間会社の持つ他のシェアハウスもシェアできる仕組みになっています。これには好きな場所を見つけてほしい、働く力を身につけてほしい、常に仲間とつながってほしいという気持ちがこめられています。

**仲間募集中！**
**応援してくださる方募集中！**

株式会社めいは、家を貸してくださる方、タイアップしてくださる地域や企業や学校、人と繋げてくださる方など、協力者を募集しています！！

株式会社めい　検索

日下部淑世さん（左）と扇澤友樹さん

### 京都 ゲストハウス 楽縁

運営代表の田中崇丈さん

二条城から徒歩5分ほどに町家を改装したゲストハウス・楽縁があります。運営代表の田中崇丈さん（23）の高校時代は政治家志望でしたが、高卒後、日本中を旅し始めました。「ヒッチハイクでさまざまな人と出会って、助けられたりもしたし価値観や考え方が変わりました」と話しています。その後、サラリーマンを経て、旅人の思い出になればいいなと昨年7月にゲストハウスをオープンしました。

ゲストハウスには田中さんと出会った人や口コミで繋がった人をメインに20～30代の人が集まっています。特徴は泊まらずにふらっと遊びに来る人が多いこと。宿泊者でも「ここに行けば何か楽しいことがあるかも」と期待しており、交流スペースのリビングで過ごす人がほとんど。

田中さんは「人との出会いで価値観って変わると思うんです。楽縁に行って人生変わった！　っていってもらえたら本望ですね」と語っています。

### アサダワタルさんに聞きました

アサダワタル

1979年大阪生まれ。日常再編集をテーマにミュージシャン、作家、大学講師として、幅広く活動するクリエイター。

プライベートな空間を人と繋がる場として開放する若者の増加について、その活動を「住み開き」と提唱し、同名の著書が話題のアサダワタル氏にお話を伺いました。

「住み開き」の活動事例で「職住一体型」というキーワードが必ずでます。僕はプライベートから仕事にも繋がるスキルが当然あると思っています。終身雇用の崩壊や雇用形態の多様化など、仕事に対する価値観が変わってきたこと。それがなければ、このような活動は生まれていないかもしれません。対比されるプライベートの価値観も、そんな社会の状況を映し出していると思います。

「住み開き」という言葉から「こういう考え方があるんだ」と勇気や安心感を受けとった人もいるでしょうね。また、大震災により、日常からつながりをもつ大事さに気付いた人も。血縁や地縁だけでなく、より異なる価値観の人同士が一緒にいられる状況になれば、より豊かな世の中になると思います。また、個人でやりたいことと社会で求められていること。この2つがいずれどこかで繋がってくることに対して、希望を持ち続けてほしい。「住み開き」という言葉に縛られる必要はないです。やることだけが目的になってほしくないし、やって失敗して気付くということも大事だと思います。

「住み開き　家から始めるコミュニティ」筑摩書房

# 青少年活動センターのページ

## 北青少年活動センター（愛称：きたせい）

### 若者たちがふれあう
## 地域活性ボランティア

「地域活性ボランティア」は、2004 年に「地域イベントボランティア」として発足しました。

最初の活動は、新大宮商店街の夏祭りへの参加と環境団体（J.E.E.）と一緒に行った年に 2 回の清掃活動でした。

現在は、約 25 名のメンバーで、北区での毎月 1 回（第 1 土曜日の午前中）の清掃活動と北区民まつりや新大宮商店街のお祭り、紫野まつりなどの地域のイベントに参加協力しています。

昨年の北区の福祉のお祭り「FUNAOKA STANDARD2011」では、メンバーが北区社会福祉協議会からイベントの趣旨を事前に学び、地域の方々でつくっている実行委員会会議に参加したり、イベントのキャラクターを作成したりするなど、事前準備から携わりました。

ゴミっ子ゲーム　北区新大宮夏祭り

船岡山公園　FUNAOKA STANDARD2011

ふなすたキャラ

地域の活動に参加して、地域の方々に知ってもらえるようになり、活動中には、「頑張ってね」「ご苦労様」という声をかけていただくこともあり、メンバーにとって、とてもやりがいのある活動になっています。

また、今年度からは、北区民ふれあい事業にも参加協力する予定をしているので、青少年が地域で活動する機会が増えます。

ゴミの達人ゲーム　北区民春まつり 2012



## ～ボランティア活動を通じての感想～

■たくさんのゴミが捨てられていること。また、それがなくらないこと。今までは、ただ放置だったけれど、活動をするうちに、自分の心にはポイ捨てを許さないという気持ちが芽生えたと思います。（高校 3 年生）

■きたせいさんと日本環境保護国際交流会（J.E.E.）の事務所は、紫明通のすぐ北にあります。「紫明通のごみひろい」を数年間ご一緒にしています。若さあふれる皆さんとの、情報交換をかねた楽しいひと時です。「継続は力なり！」これからもよろしく。
（J.E.E. 事務局責任者
環境カウンセラー　細木京子さん）

■私は、地域の中でどのように人が関わりあっていくのかということに興味を持ちました。地域の関わりは、各地方のコミュニティーにより基盤ができると考えています。その中で、あまり関わりを持たない人や他県から来てなかなか関わることができない学生がいることを知り、元々出来ているコミュニティーに関わることの難しさを知りました。けれど、それを繋ぐのもボランティアである自分の役目だと思いました。自分から積極的に関わることで自分の地域の学生たちにも知らせることができます。センターのボランティア活動として、動くことによってたくさんの人が協力して興味を持ってくれました。自分が動けば、まわりも動いてくれるという変化を知ることができました。（大学 4 回生）

紫明通りでの清掃活動

地域で行われるイベントに中学生や高校生、大学生年代の「若者」と呼ばれる年代の参加はあまりみられません。そのため、とても身近なはずの“地域”や“地域住民とのつながり”を若者にとって実際に感じる機会がないのかもしれません。

「自分が育った地域ではないし…」「自分ひとりで、ゴミ拾いをしても…」「地域のイベントには参加しにくい」、そんな若者が「きたせい」に集まって活動をする中で、地域のイベントに参加し、交流しながら“地域”について考えたり、実感したりする機会になっています。

このような経験を通して、自分の暮らしている地域に戻った時、地域住民の 1 人として地域や人とのつながりについて、少しずつでも、意識することができるような若者が増えていってほしいと思います。

（北青少年活動センターユースワーカー　小飼　文）

# ユースかわら版

## 事業レポート

### ユース提案事業　そでふれ教室

山科青少年活動センターでは４月から６月まで､｢そでふれ教室｣を５回にわたって実施しました。これは、京都薬科大学の「京炎そでふれ！京躍華」の皆さんが、そでふれの魅力を広く伝えようと企画したものです。毎回、地域の方々や子どもたちで賑わっていました。山科青少年活動センターでは、これからも若者の自主企画を支援していきます！

### 20 代話せる喫茶「hana cafe」

南青少年活動センターの１階喫茶コーナーにて、毎月第１・３火曜日に行なっている「hana cafe」。今年度もゆるやかに活動がスタートしました。20 代のスタッフが試作やメニュー考案など毎回さまざまな工夫をしているので、最近ではお客さんが徐々に増えてきました。「常連のお客さんもできて、パスタをおいしいといってもらえて嬉しかった。忙しいけれど充実した時間が過ごせている」と満足している様子。これからも、お客さんにとって居心地のいい空間になるように試行錯誤しながら「hana cafe」を盛り上げていきます。

### 農業にふれよう。

北青少年活動センターでは、青少年が毎月第２・第３土曜日に、左京区岩倉の畑や大津市仰木の田んぼで農作業をしました。４月はカブの種まき、５月は水田の準備、６月には田植えをしました。これからは、畑の整備をしたり、秋には稲刈、精米をしておにぎりをつくって食べたりします。一緒に汗を流して、自然を感じてみませんか？　心身ともにリフレッシュ！！

### 子ども・若者支援促進事業に 10 団体

NPO 等民間団体の子ども･若者支援促進事業の選考会が５月17日、京都市ユースサービス協会会議室で行われ、独自プランを準備し応募した 10 団体が合格､最高 50 万円の配分が決まりました。ユースサービス協会が京都市の委託を受け、水野篤夫協会常務理事を審査委員長に企画資料審査と面接の結果、次の 10 団体となりました。

若者と家族のライフプランを考える会、京都教育サポートセンター、勇気の出るライブ実行委員会、親子支援ネットワークあんだんて、しょうがいしゃ馬っ子の会、インホープ、京都 ARU、まちの縁側クニハウス&まちの学び舎ハルハウス、恒河沙母親の会、山科醍醐こどものひろば。

### フットサル大会　KOBATI CUP

下京青少年活動センターでは毎週火曜日・木曜日・土曜日に、中高生のためのスポーツルームフリータイムを実施しています。その利用グループ「KOBATI　F.C.」のメンバーが主催者となり、５月 27 日（日）に「第２回 KOBATI CUP」を実施しました。９チーム総勢 52 名がトーナメント方式で計９試合を行ないました。試合待ちの間には参加者同士の交流も図られ、コートの中では白熱しつつ、コート外では笑い声の多い大会となりました。決勝戦は第１回と同じ対戦でしたが、前回準優勝の KOBATI が雪辱を果たし優勝するという劇的な幕切れでした。

### 公益財団法人初の理事会

今年４月から公益財団法人になった京都市ユースサービス協会（遠藤保子理事長）の平成 24 年度第１回理事会が、さる５月 31 日にウイングス京都会議室で開かれました。協会顧問に柴野昌山前協会理事長を選任した後、23 年度の事業、決算両報告、24 年度の補正予算を承認しました。また同協会の新年度第１回評議員会は、６月 11 日に中京青少年活動センターで開き、深尾昌峰龍谷大学准教授を評議員会会長に選出、議案を審議し承認しました。



### 戦争の記憶プロジェクト

伏見青少年活動センターの「戦争の記憶プロジェクト」が今、完結しようとしています。このプロジェクトは１人の戦争体験者が語る戦争の記憶を、若者の手で動画に遺すために２月から取り組んできました。プロジェクトメンバーは高校生から社会人までの５人。初めて出会った５人が試行錯誤しながら、戦争について学習、構成、インタビュー、撮影、編集の全てを自分たちで行ってきました。それぞれの思いが詰まった一本の動画が、５月中旬に完成。動画の活用方法については、ホームページをご覧ください。

## 事業案内

### 夏休みのモテ☆イメチェン大作戦！

長い夏休み、いろいろ予定を立てている若者のみなさん！「せっかくだからオシャレに決めていきたいけど、どうしたらイイ感じになれるのか分からない…」と悩んでいる人も多いはず。そこで山科青少年活動センターでは８月４日（土）の 14 時～ 17 時、京都理容美容専修学校の皆さんの協力を得て、ネイル体験とヘアカット体験をします。オシャレのプロに伝授してもらおう！

### 自分を知って仕事に就こう♪

就職活動に向けて、自分の軸や特徴などを知っていくプログラム。グループワークやペアワークを通して、自分の大切にしている価値やニーズを明確にしていきます。最終日には少し先のキャリアビジョンを作成します。開催日時は７月 13 日、20 日、27 日の各金曜日､14 時～ 17 時｡詳細は京都若者サポートステーションまで！

### ボランティア体験「VoM's（ボムズ）」メンバー募集！

南青少年活動センターでは、「何かしたい」「気軽にボランティア活動がしたい」という青少年を対象に「VoM's（ボムズ）」を５月に発足させました。毎月第４土曜日に実施しているセンターの周辺清掃を中心に活動しています。今後は、児童館の夏祭りのお手伝いなどに参加したり、センターのフリーマーケットのブースを企画運営したりするなど、ワイワイ楽しく活動していく予定です。まだまだメンバーを募集しています。「気軽に何かしたい」と思っている青少年はぜひ、お問い合わせください。

### 「しもせいフェスタ」を実施します！

下京青少年活動センターの魅力を発信するお祭り「しもせいフェスタ」を今年も９月に実施します。しもせい利用者を中心とした【ステージ発表】や【ワークショップ】､地域の方を中心とした【フリーマーケット】など、しもせいの魅力を体感できる楽しい企画が盛りだくさんです。ご家族･お友達、お誘い合わせのうえ、ご来場ください！

### 東山フェスタ 2012

広く市民の方に、東山青少年活動センターのことを知ってもらいたい。そんな想いから､毎年開催している東山フェスタ。今年も、例年人気の「はじめての陶芸」のほか「T シャツ染め」や「土でつくる絵の具やクレヨン」｢紙版画｣｢リサイクルびんでつくるキーホルダー｣「アートフィルター」等のものづくりワークショップをはじめ、ダンスや落語、演劇公演、作家さんの作品展など様々なプログラムを７月中旬から９月初旬の約３ヶ月わたり開催します。やってみたい･見てみたいと思ったら『東山青少年活動センター』に足を運んでください。

### 京都で第２回 AIDS 文化フオーラム

日本のエイズ患者は年ごとに増えています。厚生労働省はエイズの正しい理解と予防を兼ねて、今年も 10 月６日（土）、７日（日）の２日間､上京区の同志社大学新町校舎で｢第２回 AIDS 文化フォーラム IN 京都」を実施します。

公益財団法人の京都市ユースサービス協会は、昨年 10 月に龍谷大学大宮学舎で行った第１回京都フオーラムで「10 代の青少年の恋愛事情」をテーマに、若者の本音を語るワークショップをして好評でした。今回どんな企画で登場するか検討しています。

### きたせいフリータイム

北青少年活動センターで「卓球タイム」を始めます！　第１金曜日 16 時～ 18 時と第３土曜日の 14 時～ 16 時に多目的室を開放します。友達と一緒に来てもいいし、ひとりで来ても大丈夫！学校帰りにちょっと寄ってみて、相手を見つけて対戦しよう！

ユースサービス
VOL.12
2012年7月1日発行

## ユースサービスの理念

子どもから責任ある大人へと成長する青少年を支援しています。
家庭、学校、地域社会、職場ほか、青少年が自主的な活動場面への参加を通じて、社会と交わり、自身の興味や関心を豊かにし、必要に応じて、助言、情報、または多様な人的・物的資源が得られるような機会を提供します。

## 7つの青少年活動センター

### 東山青少年活動センター
住　所：〒605-0862　京都市東山区
清水5丁目130-6　東山区総合庁舎2階
ＴＥＬ：075-541-0619
ＦＡＸ：075-541-0628
URL：http://www.ys-kyoto.org/higashiyama/

### 南青少年活動センター
住　所：〒601-8441
京都市南区西九条南田町 72
ＴＥＬ＆ＦＡＸ：075-671-0356
ＵＲＬ：http://www.ys-kyoto.org/minami/

### 北青少年活動センター
住　所：〒603-8165　京都市北区紫野
西御所田町 56　北区総合庁舎西庁舎３階
ＴＥＬ：075-451-6700
ＦＡＸ：075-451-6702
ＵＲＬ：http://www.ys-kyoto.org/kita/

### 山科青少年活動センター
住　所：〒607-8086
京都市山科区竹鼻四丁野町 42
ＴＥＬ：075-593-4911
ＦＡＸ：075-593-4916
ＵＲＬ：http://www.ys-kyoto.org/yamashina/

### 伏見青少年活動センター
住　所：〒612-8062　京都市伏見区
鷹匠町 39-2　伏見区総合庁舎４階
ＴＥＬ：075-611-4910
ＦＡＸ：075-604-4910
ＵＲＬ：http://www.ys-kyoto.org/fushimi/

### 中京青少年活動センター
住　所：〒604-8147　京都市中京区東洞院通
六角下ル御射山町 262
ＴＥＬ：075-231-0640
ＦＡＸ：075-231-1231
ＵＲＬ：http://www.ys-kyoto.org/nakagyo/

### 下京青少年活動センター
住　所：〒600-8871
京都市下京区西七条北東野町 90
ＴＥＬ：075-314-5636
ＦＡＸ：075-314-5640
ＵＲＬ：http://www.ys-kyoto.org/shimogyo/

開館時間　平日：午前 10 時～午後９時
日祝：午前 10 時～午後６時

休館日　水曜日・年末年始
（12/29 ～ 1/3）

発　行
公益財団法人　京都市ユースサービス協会
〒604-8147　京都市中京区東洞院通六角下ル御射山町 262
京都市中京青少年活動センター内
tel：075-213-3681　　fax：075-231-1231
E-mail：office@ys-kyoto.org
HP：http://www.ys-kyoto.org

印　　刷：株式会社谷印刷所
デザイン：自然堂株式会社